

中体連新人大会開催に向けた新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン

1. 糟屋区新人ソフトテニス大会開催にあたって

- 大会期間中に緊急事態宣言の発令や新型コロナウイルスの感染拡大の状況により大会を中止することがある。
- 感染拡大防止の観点から観客数に制限をかけて大会を実施する。
- 大会に参加した部員、顧問、外部指導者、審判員に新型コロナウイルスの感染者が確認された場合は、糟屋区市町教育委員会連絡協議会、粕屋保健福祉事務所に速やかに連絡し、場合によっては、部員、顧問、外部指導者、審判員の名簿を関係機関に公表する。
- 大会関係者は『糟屋区中学校新人大会に参加される関係者の皆様へ』を熟読のうえ参加する。また、学校は大会要項等を含め生徒、保護者、外部指導者等に周知し了承を得ておく。

2. 大会の実施方法について

- 糟屋区中体連は、参加する生徒に対して参加同意書を提出させる。
- 専門部で「体調確認表」を作成し、大会当日に提出させる。また、専門部長が大会当日から1週間保管する。
- 各学校は、専門部が作成した感染症対策、熱中症対策について、生徒、保護者等に説明した上で大会に参加させる。
- 大会会場の密を避けるためにトーナメント制とする。また、それに伴い時間差をつけて会場に集合し、敗戦校は速やかに帰宅する。
- 開会式は行わず、時間差をつけて来場する。
- 試合間のインターバルを長く設定し、選手並びに関係者の密集のリスクを回避する。
- 試合球は多く準備し、こまめに消毒・交換をしながら使用する。
- 審判台やコートブラシ、バインダー等の試合でよく使用する備品類はこまめに消毒する。
- 1試合ごとにトイレ、ドアノブ、審判台等の消毒を行う。
- 競技終了後は使用した用具や備品の消毒を確実にを行う。

3. 大会会場について

- 大会本部は密を避けるように配置し、適切な運営スペースを確保する。
- 大会本部の受付席と選手の間には飛沫防止シート等を設置する。
- 雨天時の試合中止の判断は各会場で連携して速やかに行う。また、避難場所等は換気の徹底を行い、可能な限り常時窓や扉を開放する。
- 感染症対策について入り口や目につきやすい場所に掲示する。また、放送による呼びかけや巡回による指導を行う。
- 学校ごとの控え場所は間隔を開けて準備し、控え場所からの不必要な移動は禁止する。
- 待機選手の応援スペースに間隔を開けるよう掲示し、3密対策を施す。

- トイレは一度に入室できる人数を制限し、換気扇を常に回したり、小窓を開けたり換気に配慮する。
- 「トイレのふたを閉めて汚物を流す」、「手洗いは 30 秒以上」の掲示をする。
- トイレや手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意する。
- 可能な範囲で手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
- 1試合ごとの「トイレ清掃・消毒スケジュール」を作成し、実施する。
- 可能であれば非接触型の体温計を用意する。また、会場入り口に手指消毒剤を設置する。
- ごみ箱は撤去し、ごみは持ち帰らせる。協議終了後、ごみの収集をする場合はマスクと手袋を着用する。

4. 学校の健康管理体制について

- 検温の徹底
 - ・1週間の体調記録表を作成し、大会当日は体調確認表を提出させる。また、大会当日も検温を行う。(各学校、顧問で検温し確認する)

- 手洗いの徹底
 - ・会場到着後、試合前、試合後、は手をしっかり洗うよう指導する。会場に十分な手洗い場の設置ができない場合は各校で用意した消毒液により手指の消毒を行う。

- 咳エチケット
 - ・移動時を含め、対戦中と練習中以外は原則、マスクを着用する。顧問や外部指導者も同様にマスクをする。マスク忘れの対策は各校で講じる。

- 声だしの自粛
 - ・ベンチ、応援席では大声を出さず、指示と拍手のみとする。ハイタッチ等も避ける。

- 水分の補給
 - ・飲料は選手、指導者とも各自用意し、チームでの共用は厳禁とする。クーラーボックスの共用も禁止とする。

- 熱中症予防
 - ・指導者は試合前、試合中の選手の体調管理に努め、少しでも不調を感じたら早めに選手交代や棄権の判断をする。

- 消毒
 - ・試合終了後、競技終了後には、備品や用具等の消毒を直ちに行う。

その他

- 大会1週間前から大会期間中の指導者・生徒の行動歴の記録を提出できるようにしておく。
- 大会終了後も一定期間検温や体調確認を行い、感染が判明した場合は速やかに各学校の顧問に連絡する。

5. 保護者の対応について

- 保護者の観戦を認めるが、団体戦は各校8名とし、密を避けるよう自校の試合が終わったら速やかに車へ移動して待機をさせる。また、顧問は保護者の応援者等体調確認表を受付時に本部に提出する。

6. 競技役員について

- 試合に入る前、終わった後は必ず手洗いをを行う。
- 競技役員は体調確認表を提出し、検温を行う。
- 審判は、試合中はマスクを外して行い、定期的に審判を交代し熱中症対策を行う。
- 競技中に選手が倒れた場合はできるだけ直接触れることがないようにする。緊急を要する場合は、手袋、マスク等を装備した養護教諭、理事等が対応する。

7. 参加者について

- 各校の来場できる生徒は、大会に登録した団体登録メンバーと応援生徒10名までとする。
- 試合中には十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合の前後ではマスクを着用する。
- 会場内では他人との距離を2メートル確保する。また、コート内においてもできるだけ2メートルを確保するよう努め、ペアで話をする際には対面しないようにする。
- 試合前のアップ及び試合において、選手が密集・密接する円陣や声出し、整列などは控える。
- 試合前の挨拶は各校ベースラインで間隔をとって整列し、互いにネットから2メートルの距離に前進して行う。
- 各試合の挨拶、トスは互いにネットから2メートルの距離を保って行う。
- ペアとのハイタッチや握手、至近距離での声掛けは行わない。試合前後の対戦相手との握手も行わない。
- 熱中症予防の観点から、チェンジサービス時の給水を認める。ただし、30秒以内に速やかに行う。
- チェンジサイズ時のコーチングの際は監督と選手の距離を2メートル程度確保する。
- 団体戦においてコートに入場できるのは試合に出場する登録メンバーと、ベンチコーチの監督のみとし、応援生徒はコートの外で一定間隔を保ち応援するよう努力する。

- コートに移動する際は、対戦校との接触を避けるため時間差をつけて移動する。
- 用具、用品(ラケット、タオル、ウェア等)のシェアをしないこと。また、個人の水筒を準備し、チーム内での共用はしない。
- 試合前、試合終了後には、手洗いを行う。
- 自身の試合が終了したら、観戦や応援はせず、速やかに帰宅する。→自身の試合が終了しても、自校の生徒が勝ち上がっているときは、応援を認める。ただし、応援のマナー(4. 学校の健康管理体制について 声出しの自粛)を遵守して行う。守られないときは、退場を求める場合もある。
- チーム内などにおいて、感染者が発生した場合は、チームを活動停止するとともに大会への出場を中止し、関係者に連絡する。
- 飲食をするときは、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控える。
- 飲みきれなかったスポーツドリンク等は各自、忘れずに持ち帰る。
- 密を防ぐため、トーナメント等の掲示はしない。
- 選手・監督・外部指導者などすべての参加者において、感染予防措置を守らない方には途中退場があることを主催者から通達しておく。

8. 感染症対策に伴う専門部の準備物(各会場で必要な個数)

物 品	事前 ✓	当日 ✓
アルコールスプレー(手指消毒用)3台		
消毒用ぞうきん 20枚程度		
手洗い用ポンプ式石けん(手洗い場2, トイレ2)		
トイレ消毒スケジュール表 1枚		
ペーパータオル 10箱		
非接触型体温計1台		
救護用フェイスシールド 3枚		
救護及び清掃用ビニール手袋1箱		
感染症対策に関する掲示物 3枚 (体育館出入口・控え室出入口・フロア出入口に拡大して設置)		
手洗い場, トイレ, 控え室の指定及び掲示 トイレと手洗い場の個数分(ふたを閉めて流す・手洗いは30秒以上)		